

宇宙基本計画の工程表改訂に向けた重点事項
(令和元年 6 月 4 日宇宙開発戦略本部決定)

<宇宙科学・探査小委員会関係 抜粋>

[Ⅲ-1]宇宙科学・探査及び有人宇宙活動（工程表 25）[文部科学省]

- ・ 宇宙科学・探査の着実な実施に向け、「宇宙科学・探査プログラムの考え方について」を踏まえ、個別プロジェクトを推進するとともに、更なる資金の確保等により、プログラム化を進め、フロントローディングを実施する。
- ・ 小型月着陸実証機（SLIM）について、2021 年度の打上げを目指し開発を進める。また、火星衛星探査計画（MMX）について、2024 年度の打上げを目指してプロジェクト化の検討を行う。
- ・ JAXA の宇宙科学・探査ロードマップの具体化を進め、戦略的中型 2、公募型小型 3 の候補の選定を受け、フロントローディングの対象技術等を検討する。
- ・ 深宇宙探査技術実証機（DESTINY+）の開発や欧州宇宙機関が実施する木星氷衛星探査計画（JUICE）への参画等、小型衛星・探査機やミッション機器の開発機会を活用した特任助教（テニュアトラック型）の制度を引き続き進める。

[Ⅲ-3]国際宇宙探査（工程表 27）[文部科学省等]

- ・ 米国が有人月着陸の実現を加速する動きがある中、我が国も、国際協力の機会の戦略的な活用や、宇宙分野にとどまらない幅広い産業界や大学等との連携を通じながら、月面での持続的な活動に向けた取組を加速させる。
- ・ 米国が構想する月近傍の有人拠点（Gateway）については、米国等の動向、我が国の科学探査への貢献や地球低軌道における有人宇宙活動との関係にも留意しつつ、国際調整や具体的な技術検討・技術実証を主体的に進め、参画に関する方針を年内に決定する。その際、我が国が強みを活かした戦略的な参画となるように留意する。
- ・ 月探査における我が国のプレゼンスの確保のため、小型月着陸実証機（SLIM）の 2021 年度打上げに向けた開発を着実に進めるとともに、インド等との協力による月極域着陸探査を目指した検討を進める。
- ・ 火星衛星探査計画（MMX）について、2024 年度の打上げを目指してプロジェクト化の検討を行う。【再掲】

<基盤部会関係 抜粋>

[Ⅲ-2]国際宇宙ステーション計画を含む有人宇宙活動（工程表 26）

[文部科学省]

- ・ 低軌道における 2025 年以降の我が国の有人宇宙活動の在り方について、各国の検討状況も注視しつつ、民間活力の積極的な活用も含めて、国際宇宙探査の計画等を踏まえ、2019 年度に整理する。

[Ⅱ (3)-5]国内の人的基盤強化（工程表 39）[内閣府、文部科学省、経済産業省]

- ・ 宇宙科学・探査分野の人材育成を推進するため、「宇宙科学・探査プログラムの考え方について」を念頭に、プロジェクトの推進のみならず、フロントローディングにおける技術開発においても、海外人材の受け入れやクロスアポイントメント制度の活用、大学共同利用システムとしての機能の一層の充実・活用等を通じて、学生・若手研究者を含めた人材交流・ネットワーク強化を図る。また、国際プロジェクトへの参加や小型・小規模のプロジェクトの機会を活用した特任助教（テニュアトラック型）の制度により人材育成を引き続き推進する。
- ・ 将来的な宇宙産業の拡大に必要な人材絶対量の確保や人材の流動性の向上のため、S-NET 等活動を通じた裾野拡大に加え、異分野人材の呼び込みのために S-Booster、宇宙データ利用モデル事業、大学・産業界とのクロスアポイントメントや共同研究等の機会を活用するとともに、宇宙ビジネス専門人材プラットフォームの運用を 2019 年度に開始する。